

実践報告 札幌市立あいの里西小学校

(1) 研究内容

研究課題：「学校にアイヌ民族の方を招いて行う体験的学習の研究」

- 北海道の先住民族アイヌの方たちをお招きし、彼らが築いてきた歴史や文化について、歌や踊り・遊びや講話などを通し、体験的に理解を深める。

(2) 実践の内容

【実践①】アイヌアートプロジェクトの方々との交流について

○ ねらい

歌・踊り・音楽を体験したり、歴史や人権についての講話を聞いたりすることで、アイヌ民族の自然を生かす知恵について考える。

○ 学習内容

＜アイヌ語について＞

日常的なあいさつについての講話

＜アイヌの音楽について＞

ムックリやトンコリについての講話と鑑賞

歌と踊りの鑑賞と体験

＜アイヌの衣服について＞

アイヌの衣服や装飾品についての講話



【実践②】調べたこと、体験したことをまとめて伝える活動について

○ ねらい

学習した内容や体験した活動をもとに、アイヌ民族の衣食住や遊びについて分かりやすく絵や文でまとめ、伝えることができる。

○ 学習内容

アイヌ民族の「衣・食・住・遊び」の4つのテーマの中から興味をもったことを一つ選び、グループで学習した内容や体験した活動をもとに絵や文でまとめる。

(3) 研究のまとめ

① 成果

「郷土の発展につくすアイヌの人たちの生活と文化」という単元は、大きく分けて①アイヌ民族の「衣・食・住・遊び」の4つをテーマにした学習、②保存会の方との交流会、③絵や文でまとめる活動の3つを柱に学習を進めた。教室でも、子どもたちのアイヌ民族の考え方や、歴史、生活の様子などについての興味は高く、意欲的に学んでいた。しかし、交流会での子どもたちの姿からは、アイヌ民族という存在をより身近に感じることができた。例えば、アイヌ語の講話では、「〇〇というのは、アイヌ語ではどのように言うのか。」など、子どもたちから質問も多く出された。アイヌの伝統的な歌や踊りなどを鑑賞するだけでなく、教えていただきながら体験も行った。自らが体験することは、子どもたちがアイヌ民族についてより深く考えるきっかけとなり、北海道の発展に尽くした先人の働きや苦心について考えることができた。

交流会があったからこそ、より一層、アイヌ民族の「衣・食・住・遊び」への興味を高めることができたといえる。学習を通して興味をもったことをまとめ、グループごとに発表を行った。クイズ形式で発表を行うなど、子どもたちなりの工夫が見られ、学習した内容や体験した活動をまとめるだけではなく、伝える相手を意識した取組になった。他に伝えることを課題にした学習のまとめは、より深い学びの実現となった。これも保存会の方々との交流の成果と言える。



② 課題

- ・ 「衣・食・住・遊び」の4つから自分のテーマを選び、絵や文でまとめたレポートを基に学習の発表を行ったが、発表の方法は、まだまだ改善の余地があると感じた。

③ 提言「人権教育のすすめ」

- ・ 今回は社会科の学習の中での「人権教育」として行った。学習を進めるうちに、自分たちとの生活や文化の違い、またアイヌ民族の考え方にふれることができた。「他を知る」ことが、「人権教育」の一歩だと考える。総合的な学習の時間や道徳教育との更に連携することでより充実したものになると考える。